

令和5年度 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 実施事業概要及び成果

No.	事業名	事業概要（計画時）	事業 始期	事業 終期	総事業費 (単位：円)	交付金関連 事業費 (単位：円)	臨時交付金 充当実績 (単位：円)	事業の進捗 状況・経過等	事業実施による成果
1	妹背牛町電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金【低所得者世帯給付金】	コロナ禍において物価高に直面する低所得世帯（住民税非課税世帯）への支援を行うことで、低所得の方々の生活を支援するもの。  R5年度分の住民税非課税世帯 476世帯×30千円=14,280千円	R5.8	R6.1	14,280,000	14,280,000	14,280,000	事業完了	支給世帯 476世帯  物価高に直面する低所得者世帯に対し、3万円を支給することで生活を支援することが出来た。
2	妹背牛町電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金（事務費）	コロナ禍において物価高に直面する低所得世帯への支援を行うことで、低所得の方々の生活を維持するにあたって必要な事務経費。  消耗品費 9千円、郵便料 128千円、振込手数料 54千円、システム改修委託料 594千円 合計 785千円	R5.8	R6.1	771,611	771,611	771,000	事業完了	事務費総額 771,611円  事務費によって円滑に給付金を支給することが出来た。
7	もせうし町民生活支援商品券	コロナ禍において、原油価格・物価の高騰などに直面している全町民に商品券を配布することにより、町民の生活支援を行うとともに、消費が低迷している商店街の活性化も目指すもの。  町民 2,656人×6,000円=15,936,000円 商品券印刷 16,000枚×12円×1.1=211,200円 配布用封筒 27箱×1,800円×1.1=53,460円 合計 16,200,660円	R5.6	R6.2	15,651,000	15,651,000	15,651,000	事業完了	町民 2,608.5人×6,000円=15,651,000円 （商品券換金実績）  物価高に直面する町民に対し、商品券6千円を支給することで生活を支援することが出来たとともに、商店街の活性化につながった。
8	妹背牛町バス路線運行継続支援金	コロナ禍において物価高騰に直面する運行事業者に対し運行継続に向けた支援を行う。ただし、既に廃止が決定している路線や本支援金事業よりも優位な支援を受けている、または受ける予定の路線は支援の対象から除くものとする。  対象1路線における令和5年4月から令和5年9月までの運行経費相当額の半額 ※R5総走行距離258,031.6km×R5事前内定キロ単価210.36円 R5運行経費54,279,527円×町内延長割合18.79%/2(6ヶ月分)/2(半額)≒2,549千円 をバス事業者に助成するもの。	R6.3	R6.3	2,549,000	2,549,000	2,549,000	事業完了	運行継続支援金 2,549,000円  コロナ禍及び物価高に直面した運行事業者に支援金を助成することで、運行継続の負担軽減につながった。
9	学校給食費全額免除	長引くコロナの影響により、最近では小・中学校での感染も多く、臨時休校となっている。子どもが急遽自宅での生活を送ることとなり、保護者も仕事を休み、固定費増などの負担が増えていることから、学校給食費の負担分を全額免除する。  小学校低学年 190食× 26人× 241円= 1,190,540円 小学校中学年 190食× 24人× 244円= 1,112,640円 小学校高学年 190食× 30人× 248円= 1,413,600円 中学生 190食× 51人× 304円= 2,945,760円 合計 6,662,540円	R5.4	R6.3	6,669,542	6,669,542	3,883,000	事業完了	小中学校児童生徒131人分 給食費 6,669,542円 長引くコロナの影響による家計費高騰から子育て世帯の負担軽減につながった。

10	保育所副食費全額免除	① コロナ禍において物価高騰に直面する保育園児の保護者負担を軽減するため、副食費の負担を全額免除する。 ② 保育所副食費の無償化にかかる経費 ③ 3歳児 10名×12ヶ月×4,500円＝ 540,000円 4歳児 3名×12ヶ月×4,500円＝ 162,000円 5歳児 9名×12ヶ月×4,500円＝ 486,000円 合計 1,188,000円 ④ 保育園児の保護者	R5.4	R6.3	1,156,500	1,156,500	0	事業完了	交付金充当無し
計					41,077,653	41,077,653	37,134,000		